

知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッション

知床で生きる、働くー地域の自然と人をつなぐ活動とは？

(2021年9月9日開催)

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団は、知床で自然と人をつなぐ活動を行っている3人をスピーカーに迎え、これまで当財団が開催してきたフォーラムなどとは少し切り口を変えて、知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッションを開催しました。



日時：2021年9月9日（木）

19:00～21:00

方法：オンライン（Zoomによる）

スピーカー：村上 晴花さん

（北こぶしリゾート経営戦略室）

秋葉 圭太さん

（公益財団法人 知床財団）

三浦 一輝さん

（斜里町立知床博物館）

コーディネーター：敷田 麻実さん

（北陸先端科学技術大学院大学教授）

参加者：51人（学生30人、社会人21人）

北海道内のほか、東京都、愛知県、茨城県、千葉県、山梨県、岐阜県、大阪府、兵庫県、鹿児島県など全国各地からご参加いただきました。



※知床ネイチャーキャンパスとは・・・

野生生物の科学的保護管理（ワイルドライフマネジメント）の先進地である知床を舞台に、この分野の第一線で活躍する大学教授らが講師を務め、保護管理の実際に関する講義、野外実習演習を行う教育プログラムです。

主催 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

講師紹介（敬称略）



コーディネーター 敷田 麻実

北陸先端科学技術大学院大学教授。
知床世界遺産科学委員会委員 適正
利用・エコツーリズムWG座長。
著書に「地域資源を守って生かす
エコツーリズム」（編著・講談
社）、「生物文化多様性」（編
著・講談社）。



スピーカー 村上 晴花

北こぶしリゾート広報・CSR担当。
2017年酪農学園大学卒業。大学時
代にヒグマの調査研究を行なって
きた経験から、ヒグマの市街地侵
入防止策などを行う「クマ活」の
中心メンバーとして活躍。また漁
業者や行政関係者、自然ガイドな
ど幅広い人たちが参加する「知床
ゴミ拾いプロジェクト」代表も務
める。



スピーカー 秋葉 圭太

公益財団法人知床財団公園事業推
進プロジェクトリーダー・研究員。
2005年立命館大学大学院修了後、
山梨県庁に勤務。09年より知床財
団に勤務。野生動物の保護管理や
知床五湖利用調整地区の制度運用、
公園事業係長を経て、21年より現
職。知床の保全と利用を両立する
管理に携わる。



スピーカー 三浦 一輝

知床博物館学芸員。淡水魚類や両
生類、淡水二枚貝などの動物を担
当。北海道大学大学院環境科学院
の修士課程を修了後、日本学術振
興会特別研究員を経て、2019年4
月より現職。20年3月に博士（環
境科学）を取得。自身の研究に加
え、地域の人たちと協力した博物
館活動に従事する。

プログラム

知床ネイチャーキャンパスpresentsオンライントークセッション

知床で生きる、働くー地域の自然と人をつなぐ活動とは？

2021年9月9日（木） 19:00～21:00

- | | |
|-------------|---------------------------|
| 19:00～19:05 | 主催者あいさつ（事務局） |
| 19:05～19:25 | トーク1 村上晴花さん |
| 19:25～19:45 | トーク2 秋葉圭太さん |
| 19:45～20:05 | トーク3 三浦一輝さん |
| 20:05～20:50 | 3人での意見交換（コーディネーター：敷田麻実さん） |
| 20:50～21:00 | 主催者あいさつ（中川元・当財団業務執行理事） |

トーク1 村上 晴花さん

ヒグマを守るため、北こぶしリゾート全体で取り組む地域貢献活動「クマ活」のほか、個人で取り組んでいる「知床ゴミ拾いプロジェクト」、知床五湖での自然ガイドの活動をご紹介いただきました。ホテルでのスタッフトークの場面で、伝えたいことを正確に伝えることの難しさを感じた経験もお話いただきました。

どの活動においても、村上さんならではの楽しみながら物事を進める推進力の強さや、共感の輪を広げていくプロセスが印象的でした。

トーク2 秋葉 圭太さん

国立公園管理に関する仕事の中で、リアルな合意形成の現場の苦労や考え方を紹介いただきました。マイカー規制に関する実際の会議の回数や内容を例に、さまざまな価値観の違いがあること、自分の立ち位置を認識しておくこと、自分たちから地域や社会のことに関心を持つことの大切さなどをお伝えいただきました。

秋葉さんの経験からたどり着いた「入り口は観光、出口に保全」というキーワードには、多くの参加者から共感の声をいただきました。

トーク3 三浦 一輝さん

あまり知られていない知床博物館学芸員の日常の仕事を紹介していただき、中でも自身が手掛けた2020年度の特別展「鮭と川と人と」のコンセプトや展示内容、空間づくりの工夫を、多くの写真や動画で詳しくご紹介いただきました。

その上で地域の博物館、学芸員として、地域住民や子供たちに寄り添い、「近くて遠い」と感じる知床の自然と人の橋渡しをすることが重要な仕事だとお伝えいただきました。

トークセッション コーディネーター：敷田 麻実さん

後半のトークセッションでは、北陸先端科学技術大学院大学教授の敷田麻実さんにコーディネーターを務めていただきました。

Zoomのチャット機能を使って参加者の皆さんと交流しながら、3人の活動の共通性を考えたり、自然と人をつなぐ活動の先に3人が目指すものについて議論を深めていただきました。

楽しみながらゴミ拾いをする、楽しそうな展示から地域の問題に気がついてもらうこと、ルールや規制の中身を人の楽しみに寄り添ったものにすること。切り口や場面は違えど、人の楽しみに基づいた活動を重視する姿勢や認識が、3人の活動の根底に共通すると実感しました。敷田さんのコーディネートによって、実際に知床で自然と人をつなぐ活動を行っている3人から、地域に必要なコミュニケーションや考え方、心構えを深く学ぶ時間となりました。

参加者からはチャットを使っての質問や意見、感想のほか、終了後のアンケートにも多くの感想をいただきました。

